

貝類最後の楽園 — 八代海

有明海特産種という言葉を知っていますか？。これは日本国内では有明海にしか分布しない生物を指しています。魚類ではムツゴロウ・ヤマノカミ、カニ類ではハラグクレチゴガニ・ヒメモクズガニ、貝類ではアズキカワザンショウガイ・ウミマイマイ・ヤベカワモチ・シカメガキなど合計23種が有明海特産種です。

有明海・八代海は、1万年ほど前は大陸と陸続きであったため、大陸と共通の種(大陸系遺存種)が多数生息しています。大部分の種は、日本の他の海域にも生息していますが(ハマグリ・シオマネキなど)、一部の種は有明海・八代海にしか生息していないため、有明海特産種と呼ばれています。したがって、正確には有明海・八代海特産種といった方がいいのかもしれませんが。

これらの生物の多くは、有明海では絶滅の危機に瀕していますが、おもしろいことに八代海北部には比較的多くの個体が生息しています。



大野川河口。小河川の河口近くに発達するヨシ原と周辺の干潟が、有明海(準)特産種の主要な生息地である。

八代海にはこの他、有明海準特産種(日本国内では主として有明海・八代海にのみ生息する種)も

多く見られます。特に、貝類は豊富で、国内の他海域ではほとんど見られなくなったヒロクチカノコ・シマヘナタリ・スミノエガキなども生息しています。



アズキカワザンショウ(殻長約5mm)



ヤベカワモチ。矢部川で発見された種だが、現在では大野川に最も多く生息。

ただ、八代海でも、堤防や漁港建設などに伴う海岸線の改変や赤潮の発生により、有明海(準)特産種は減少傾向にあります。今後とも、八代海の生物多様性が維持されるように、彼らの生息環境保全に努める必要があります。

お知らせ

1. 第2回沿岸域環境科学教育研究センター講演会

「有明海の環境変異と生物学」(仮題)

「赤潮」や「グリーン・タイド」などからみた浅海域環境の現状と、環境保全や水産資源開発にむけた生物学的研究についてご講演いただきます。定員80名(当日先着順)。無料。

日時：平成15年11月14日(金)13:00~16:00

場所：熊本大学くすのき会館ホール(熊本市黒髪2-40-1)

講師：九州大学大学院生物資源環境科学府教授

本城凡夫氏

独立行政法人水産大学校生物生産学科教授

水上 謙氏

長崎大学水産学部助教授 桑野可和氏

2. 平成15年度文部科学省国際シンポジウム

「干潟・浅海砂泥域における大型生物攪拌種の生態学—個体行動から生態系エンジニアとしての役割まで」

貝類の新規加入を妨げて絶滅させたり、物質循環に影響を及ぼすスナモグリ類・アナジャコ類が、最近の20年間に有明海で爆発的に増えています。比較生態学的見地から、これらに起因する諸現象について議論します。入場無料。

日時：2003年11月1~2日(各日、9:00~17:00)

場所：長崎大学中部講堂(長崎市文教町1-14)

開催責任者：玉置昭夫(長崎大学水産学部教授)

3. 「みらい有明・不知火」シンポジウム

有明・八代海の環境に関する学術講演、一般講演(市民対象)およびパネル展示、生き物展示等があります。

日時：平成15年10月11日(土)10:00~17:00

場所：佐賀大学理工学部DC棟

主催：熊本大学、佐賀大学、長崎大学、NPO：みらい有明・不知火

4. 「NPO：みらい有明・不知火」の設立

本沿岸域センターの滝川教授が理事長となり、平成14年6月11日に設立しました。現在の会員数は、正会員205名、支援会社49社に及び、全国各地から参画しています。事業活動方針は、①海域を中心とした自然・生態環境の保全、②自然災害に対する防災・減災対策の調査・研究と技術開発、③地域社会への情報提供・環境教育の実施などです。国内外へ向けても、学術的・社会的意義と効果が大きい期待されるものです。

連絡先：〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39番1号

熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター

事務連絡先：熊本大学総務部研究協力課

TEL096(342)3143 FAX096(342)3149

HP:<http://www.kumamoto-u.ac.jp/center-for-marine/top.htm>